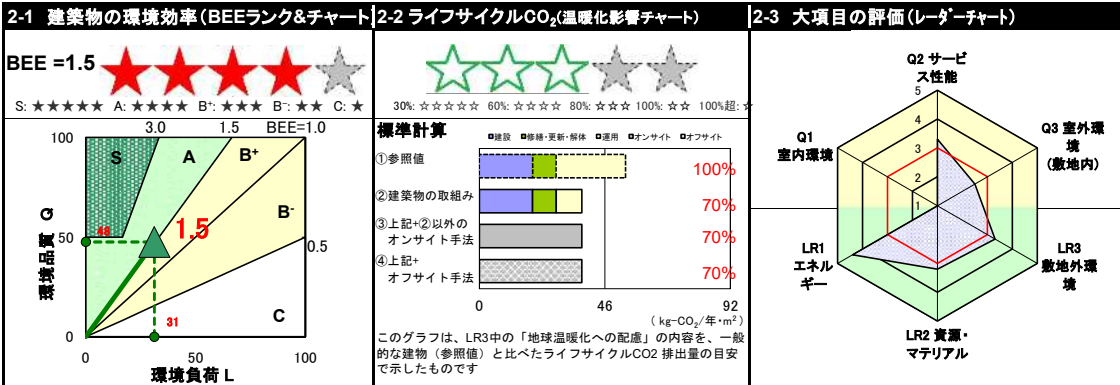
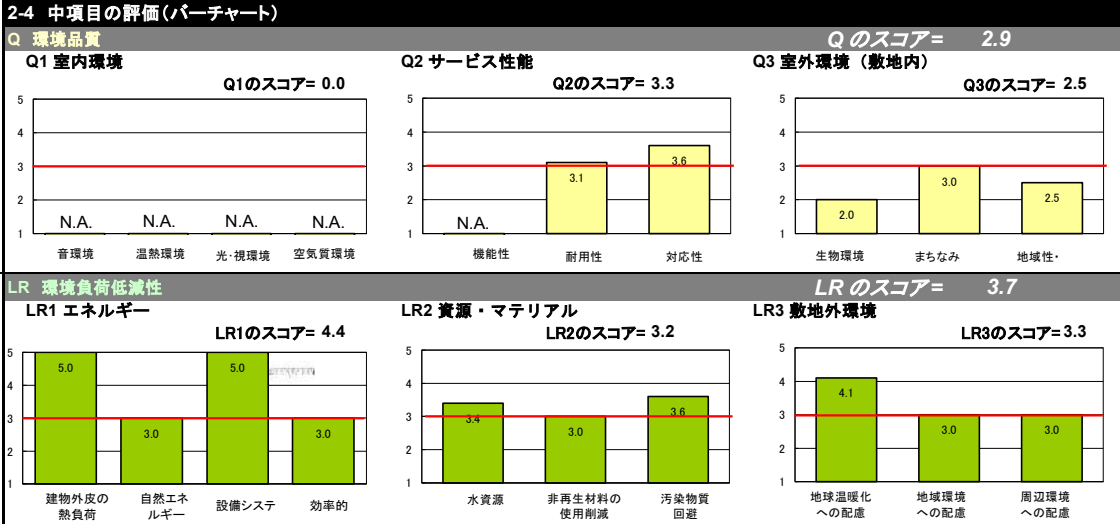




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社カネヨシ 第二MLC	階数	地下0階地上2階
建設地		構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2026年4月9日
敷地面積	63,661 m ²	作成者	佐藤 道太郎
建築面積	5,084 m ²	確認日	2026年4月9日
延床面積	8,694 m ²	確認者	佐藤 道太郎



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.1	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.2	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

かんたんな環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社カネヨシ 第二MLC

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.9	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	3.0	-		
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	3.0	-		
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	-	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-	-	3.0	-		
1.3 吸音			-	-	-	-	3.0	-		
2 温熱環境			-	-	-	-	-	-		
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-		
1 室温			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-		
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 光・視環境			-	-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-		
1 昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 方位別開口			-	-	-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御			5.0	-	-	-	3.0	-		
3.3 照度			3.0	-	-	-	3.0	-		
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-		
4 空気質環境			-	-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-		
4.2 換気			-	-	-	-	-	-		
1 換気量			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-		
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能			-	-	0.43	-	-	-	3.3	
1 機能性			-	-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性			0.5	3.1	0.52	-	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.3	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	5.0	0.15	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-		
2.4 信頼性			0.1	3.0	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		

上位3種のうち2種でB以上・E不使用

3 対応性・更新性				0.4	3.6	0.48					3.6	
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.6	0.31	-	-	-			
1	階高のゆとり	階高が3.9m以上		-	5.0	0.60		3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.11		3.0	4.0	0.40		3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-			
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-		-	-		
1	空調配管の更新性	幹線系統にケーブルラックを採用 電線管敷設・ケーブルラック設置		-	3.0	0.17			-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11			-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11			-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22			-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	-	2.5	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30		-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40		-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50		-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50		-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-		-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	-	4.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.63	3.0	5.0	0.20		-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.10		-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.37	3.0	5.0	0.50		-	-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	3.2	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水				節水型便器の採用			3.0	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減			② 独自				-	3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用							-	3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用							-	3.0	0.21			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用							3.0	1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材							3.0	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	LGs下地、OAフロア			3.0	5.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避							0.6	4.0	0.68			
1 消火剤							-	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				発泡剤を用いた断熱材の使用無し			-	5.0	0.50			
3 冷媒							3.0	3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率70%			-	4.1	0.33		4.1	
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の使用無し			-	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善							-	2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制							0.2	3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減				独自				-	3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制							-	3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			独自	適切な量の駐車・駐輪スペースを確保			-	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制							-	1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							0.4	3.0	0.40			
1 騒音				独自				-	3.0	1.00		
2 振動				独自				-	-	-		
3 悪臭								-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制							0.4	3.0	0.40			
1 風害の抑制							-	3.0	0.70			
2 砂塵の抑制							-	3.0	-			
3 日照阻害の抑制							-	3.0	0.30			
3.3 光害の抑制							0.2	3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							-	3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-	3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	3.2
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:22.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社カネヨシ 第二MLC

計画上の配慮事項	
総合	倉庫を間仕切りのない大空間とすることで、可変性があり効率的に作業できるように配慮した。
Q1 室内環境	「評価対象外」
Q2 サービス性能	耐力壁が無いゆとりのある内部空間とすることで、将来への対応性や可変性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	空地を多くとり、見通しの良い建物配置とすることで防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー	照明器具にLED照明を採用することで設備システムの高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具に節水型器具を採用することで水資源保護に配慮した。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車・駐輪スペースと荷捌き用車両の駐車スペースを確保し、複数の出入口を設けることで周辺道路の渋滞緩和に配慮した。
その他	